

平成 30 年度水産試験場研究成果発表会を開催しました。

1月21日(月)県水産会館にて、研究成果発表会を開催しました。当日は漁業関係者など約100名の方々にご来場をいただき、熱心にご聴講のうえ、ご質問やご意見をいただきました。ご参加いただいた皆さまに心からお礼申し上げます。

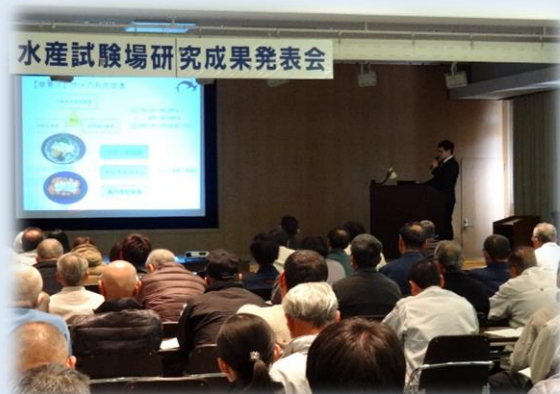
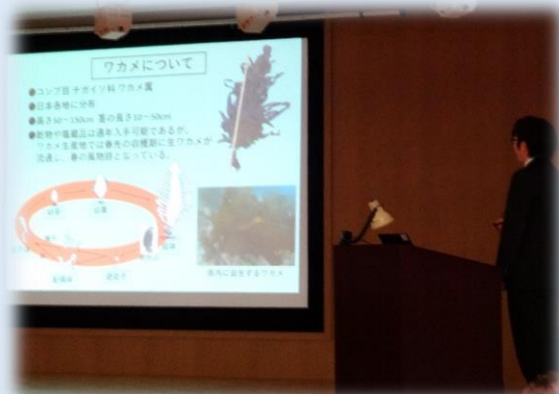
発表要旨や発表ポスターは水産試験場HP (<http://www.mz-suishi.jp/index.html>) に掲載しておりますので、興味のある方はいつでもお問い合わせください。



田中場長挨拶



成原県漁連常務挨拶



発表の様子



ポスター発表



発表者

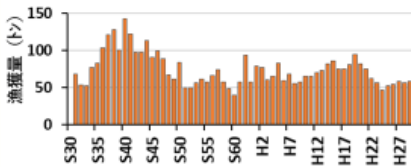
発表ポスターの一例

イセエビの資源構造と合理的な利用法の開発

外山 寛隆 (宮崎県水試 資源部)

はじめに

近年、イセエビの資源は低迷しており (H27資源評価: 低位、横ばい)、県では、資源管理指針により、小型エビの再放流を推進していますが、漁獲低迷の要因や資源構造、漁獲の実態については知見が乏しい現状にあります。そのため、より合理的な資源の利用を図るため、平成29年度からイセエビ資源の利用状況を把握するための調査を行いました。



漁獲されたイセエビ

図1 イセエビの漁獲量の推移

方法

平成29年は、県内地区の漁場と禁漁区において潜水調査による目視観察結果と漁業者に記入依頼した操業日誌による漁期間中の漁獲量の変化について、比較をしました。

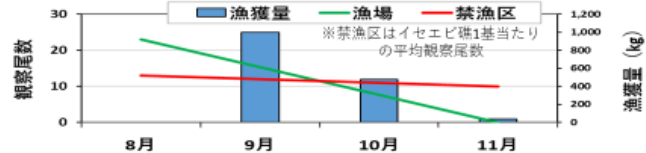


図2 県南地区における目視調査による観察尾数と漁獲量の推移 (平成29年)

結果

潜水調査による目視観察の結果、漁場内では、8月に23尾のイセエビを観察しましたが、11月には観察できませんでした。一方、禁漁区では、8月と11月ともに同程度のイセエビが観察されました。操業日誌による漁獲量は、解禁直後の9月に漁獲が集中し、その後、月を経るごとに大きく減少していました。これらのことから、漁期初めの集中的な漁獲によって、漁場内のイセエビは減少するものの禁漁区のイセエビは変化が無いことがわかりました。

今後の展望

イセエビが減少する原因が、漁獲による影響が大きいのか、それ以外の要因なのか、今後も漁場における効率的な資源の利用方法を提案できるよう、調査を継続していきます。

アカアマダイの人工種苗生産の取組!

～親魚確保・採卵・人工授精・VNN防除対策～

金丸 昌慎 (宮崎県水試 増養殖部)



I アカアマダイとは?

- 本県では沿岸に分布し、主に延縄(はえなわ)により漁獲される。京料理で有名な高級魚。
- H29年の宮崎県の漁獲量は、15.6トン。ピーク時(1元年)の約 1/17。
- 資源レベルは「中位」、資源動向は「増加」、資源回復のため「種苗放流」が期待されています。
- 主な漁場は、水深 100～150m(表層と水温・水圧が異なる環境)、活魚流通はありません。
- 産卵盛期は、8～10月(太平洋側では、高水温、台風の影響を受ける時期になります)。

II 取組の背景と基礎試験

- 種苗生産に着手するには、産卵盛期の8～9月は表層水温が高い上に水深が深く親魚(活魚)の確保が困難。親魚1尾当たりの卵量の少なさ、飼育水の冷却が必要。仔稚魚期に免疫すると全滅に繋がるVNNの防除対策など、克服するべき課題が多く、当初、宮崎県では、困難と考えられていました。
- その後、国の知見が蓄積し、それらの技術導入により着手可能と判断し、基礎試験を行いました。
- 困難な活魚への親魚確保について、複数のアマダイ延縄漁業者の協力が得られました。
- 種苗生産は、産卵後期ではあるが、仔稚魚飼育可能な水温まで下がる10月下旬に行い、親魚管理に必要な冷却機能については、施設を修理・改造し、水温を管理できるようにしました。
- VNN対策として、迅速な卵の検査による卵の選別、未受精卵洗浄、受精卵消毒を行いました。
- H24年度に、初めて受精卵1.3万粒を得て、H25年度には、初めて人工種苗76尾を生産できました。

III H26年度からの取組

- これらの結果を基礎として、H26年度からは、規模を拡大し、人工種苗の生産・放流を目的に、①水産試験場【増養殖部】②(一部)宮崎県水産振興協会、③水産試験場【資源部】とが、役割を分担し、各種技術開発試験を行っています。
- 【増養殖部】は、親魚(活魚)確保・採卵・人工授精・VNNの防除対策などの研究を行っています。



表1 平成26～30年度の種苗生産試験結果の概要

年度	採卵日	親魚確保体数(尾)		採卵した親魚数(尾)		採卵した受精卵数(個)	結果
		♀	♂	♀	♂		
H26	10月23日～29日	21	14	37	22	19万粒	H27年2月、初の産卵量人工種苗3,000尾放流
H27	10月29日～31日	33	17	31	15	27万粒	H28年2月、人工種苗21,789尾放流
H28	10月22日～29日	19	14	41	26	43万粒	H29年2月、人工種苗22,884尾放流
H29	10月21日～11月2日	26	20	59	33	20万粒	H30年2月、人工種苗3,888尾放流
H30	10月30日～11月1日	24	15	72	39	36万粒	現在、①～③宮崎県水産振興協会等で育成中

有害赤潮の共同モニタリングによる赤潮発生機構の解明

宮川 博紀 (宮崎県水試 増養殖部)



【はじめに】

○ 宮崎県北部海域を含む瀬戸内海西部海域(周防灘、広島湾、豊後水道周辺海域)での有害赤潮による魚類への死を防止するため、関係県(宮崎県、山口県、広島県、福岡県、大分県及び愛媛県)がモニタリング調査を共同で行い、有害種の初期発生から増殖、消滅に至るまでの全容の把握をした。また、本県としてはカレニア・ミキモイを対象として、豊後水道方面からの南下を捉えるため、調査地点を大分県との県境付近に設定し北浦湾への流入状況を調査しました。

【宮崎県における成果】



図1 瀬戸内海西部・豊後水道海域におけるカレニア赤潮発生条件+平成24年の分布拡大推定経路*



図2 宮崎県海域(北浦湾)におけるカレニア赤潮発生シナリオ

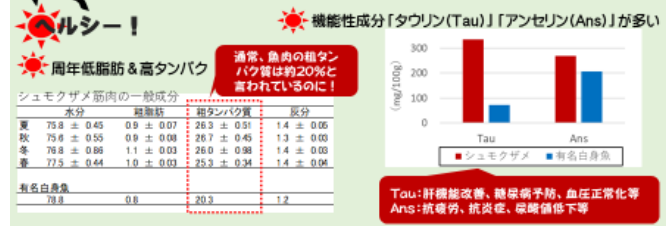
赤潮は、潮流や風の影響により、広域に移動する可能性があります。本県の赤潮調査情報や近隣海域の赤潮発生等の情報に注意し、被害防止・軽減に努めましょう!

シュモクザメのセールスポイント

～成分特性と加工特性～

長野 昌子 (宮崎県水試 経営流通部)

「ひむかのつか」の主要魚種であるシュモクザメについて、美味しさをPRするための知見収集を目的に成分特性と加工特性を調査したところ、「ヘルシー」「美味しい」「加工しやすい」魅力的な魚であることがわかりました。



シュモクザメは軟骨魚類。硬骨魚類にある小骨(神経棘、肋骨、上肋骨等)がない。軟骨にはコンドロイチン硫酸が!